

目的 めざましい技術革新の波が 日々 新しい生活環境をつくりだしている現代に、自然環境と社会環境の調和をめぐり、生活の質的向上をはかる家政学は、多角的立場からの検討がせまられて来た。したがって 社会家政学の新しい方向性を見出すために、今日的社会的課題への取り組みをはかる。

- 方法
1. 情報化時代における電波メディアによる生活形態の変容
 2. 社会福祉と家政学の学際的接近について。
 3. 高齢化社会におけるヒューマン・ライフと家政学
 4. 人類労働学(ヒューマン・エルゴロジー)と家政学
 5. 生命への回帰-生存哲学への模索

結果 21世紀に向けての胎動が、地球時代の今日、個人、家庭、社会、国家を含めて多様な価値による大きな変貌がみられている。とくに 日本の人口構成から さげらぬない日本の高齢化社会の構造は 1990年をピークに 急激な社会変化が予測されている。したがって困難な課題に対し、「新しい家政学」が 時代的要請にこたえて、具体的な実践行動学としての ヒューマン・エコロジカルな立場から 人間の生命回帰を目標とした生存哲学の創造が80年代の家政学の目標ではないかと考える。

今回は その方法として、人類労働学及び 社会福祉領域、電波メディアによる生活の複合形態の変化を通じて、「新しい家政学」のコアともいえるべき生存哲学の模索を明らかにしたい。